

# 野外実習の思い出

松楠会丸亀支部 前田 伸雄

昔、恥ずかしくて人に話せなかった失敗が、古希を迎える頃になると、妙に恋しくなる。お年頃のせいかなあ。

## 1 植物分類実習の話

小・中学校の理科の先生は身の回りの植物を見て、名前を言えることが必須知識である。そのための植物分類学の講義がある。座学だけでなく、ときどき紫雲山へ野外実習にもでかける。U先生の授業は楽しく、就職してからも、大いに役立った。そのときの失敗・経験話

U先生「これはナズナです。春の七草の一つですね。」これを聞いて、張り切った。

「先生、これナズナですよ。」「いや、これはグンバイナズナ。ナズナとは違って、実の形が相撲の軍配の形をしているでしょう。」「分かりました。先生 これグンバイナズナですよ。」「いや、これはマメグンバイナズナ。グンバイナズナより少し実が小さいでしょう。」すみません。以後、図鑑をちゃんと見るようになりました。U先生 ありがとうございました。

## 2 地質学実習 岩石の種類鑑定の話

高知県の越智町に横倉山がある。4億年以上前のシルル紀の石灰岩でできている貴重な山である。また、故牧野富太郎博士の研究の山でもある。B先生に引率され、ここへ化石見学・実習に行った。全山 南の海の底でできた石灰岩でできているはずなのに、登山の途中で、れき岩を見つけた。これは学会や新聞に大きく取り上げられるかもしれない大発見である。急いで先生のところに行き、得意げに「先生、れき岩を見つけました。」と報告。先生、岩をくるくると回してみても、「前田君、これはコンクリートだよ。ハイ」と返してくれた。同行のみんな、大爆笑。大発見はパー。お騒がせしました。すみません、B先生。

## 3 地質学実習 いまだに残念だった話

現在のさぬき市に多和というところがある。古生層・中生層があり、化石の宝庫である。B先生に引率され、地質学実習・化石採集に行った。化石はノジュールと呼ばれるまんまるいボール状になった岩の中に入っている。現地についてすぐに、直径15cmもある見事なノジュールを見つけた。「しめた。きれいな化石が取れるぞ。」と思い、ほかの石の上に置き、力まかせに叩いた。しかし、叩いても叩いても割れない。あきらめてノジュールを後ろへぽいと捨てた。それは転がってB先生の足もとへ。おもむろに先生は取り上げ、手に持ってハンマーで軽く一撃。真ん中できれいに割れ、中からは見事なアンモナイトの化石が出て来た。「ふむ。これはいい。」と新聞紙にていねいに包み、リュックの中へ。「前田君、ノジュールは石の目を見て叩くんですよ。」とアドバイスをくれた。あれから50年経つが、いまだに惜しかったなあ、あのアンモナイト。故B先生は、世界的なアンモナイトの権威だと知ったのは、卒業後でした。「先生、天国でもアンモナイト研究をされてますか。」 (学芸・昭和40年卒)